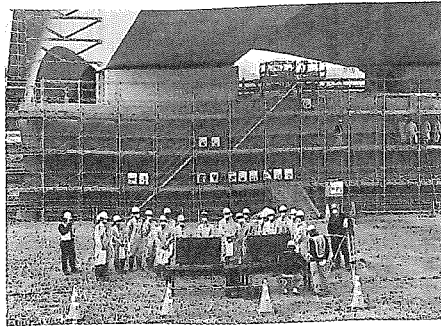


映像を用いて説明した



機械化進む業界知って 帯広建協 高校生現場見学会

【帯広発】帯広建設業協会(秋原一利会長)は21日、帯広工業高校と帯広農業高校の生徒を対象とした現場見学会を開催した。旧橋解

体と橋脚補強の2現場の見学やICT建機の説明などを通じ、機械化・自動化が進む建設業の魅力を伝えた。

建協は、地元高校生に建設産業を広く認識してもらい業界のイメージアップを図るとともに、建設業への新規入職を促進するため、毎年現場見学会を開催している。帯広工業高環境土木科2年生約40人と帯広農業高農業土木工学科2年生約40人が参加した。

帯広建管発注「川西芽室音更線中高橋架換旧橋解体」(西江建設(株)施工)と帯広開建発注「241号帯広市平原大橋橋脚補強」(髙平田建設施工)の2現場を、2校が交互に訪問した。

橋脚補強の現場では、森若貴広現場所長が工事概要などについて説明したあと、実際に足場の上で橋脚の現況などを間近で確認。ICT建機の説明やドローン映像などを通じて機械化や自動化が進む建設業の魅力を伝えた。

森若所長は「見学会を契機に少しでも建設業に興味を持ってもらえれば、将来の進路の一つとして関心を持ってほしい」と話した。